

## 伍 職 考(ひとりごと)

目が覚めてコーヒーを口にする…。

「ああ今日も美味しい！ちゃんと味がする！香りも分かる！」と、嗅覚・味覚を確認してほっとする。夜、布団を蹴っ飛ばして寝ている子どもに布団をかけて、自分も布団に入る。「ああ今日も一日無事に過ごせた」と、生きていることに感謝と幸福感を感じる。以前から、一日一日の命が当たり前ではないことを実感してきたけれど、新型コロナウイルスの感染が広がって、よりいっそう、そんな思いが強くなってきている…。



さて、これからいったいどうなっていくのでしょうか…。いつ終息するのか先が読めませんが、時代の変わり目なのかなと感じています。今回の新型コロナウイルスを契機に日本はもちろん、世界中の社会、経済、職業や仕事のしかた、生活、価値観、常識、ありとあらゆる事が一気に変わっていくのではないかと感じています。ウイルスが終息した後も、以前と同じ生活、社会には戻らないのではないかと…。なぜかって？…なんとなくです…。

具体的にどう変わるのかを挙げればキリがないのですが、いくつか書いてみたいと思いますが…、まず前提として、すべてにおいて以前からそういう流れはあったのだと思っています。

たとえば、「テレワーク」と言われるような仕事のしかたも「働き方改革」の流れでしょうし、インターネットや通信機器の発達と普及によって、仕事の内容によっては、どこにいても仕事ができるという流れは、すでに10年以上も前からありました。

家にいても買い物ができるということも同じです。

ネット通販をはじめ、スーパーが生鮮食品を自宅に届けてくれるサービスは始まっていました。アメリカでは、2年ほど前からすでに大型ショッピングモールが次々と閉鎖されているそうです。インターネットに通じていれば、外出しなくても買い物はできるのです。

いま、日本は新しいお札の発行準備をしていますが、これから現金はそれほど必要なくなるかもしれません。世界はキャッシュレスに進んでいます。どこの誰がどんな手で触ったかもわからないお札を、みんなで回し合っていますから

「お金を触ったら手を洗いなさい」と教えられてきたことが、今回のウィルス騒動であらためて腑に落ちたことでした。

さらに仮想通貨が出現してきたことも、現金離れとインターネット、グローバル化などのすべてが関係していることでしょう。

経済については、もしかすると、資本主義経済の終焉に向かっているのではないかとさえ思います。

第二次大戦後の高度経済成長からの流れのままに、今日まで続いてきたのだと思います。それが大きく転換していく時期にあると思います。かつては「24時間働けますか♪」というCMが流行った時代もありました。それが、働き方の変化に伴って家庭の在り方や家族の時間の過ごし方も変わっていくのではないのでしょうか。今、最初から終身雇用のつもりで就職する若者がどれほどいるのでしょうか。ユーチューバーが子どもたちの憧れとなる時代です。仕事の選び方も、仕事という概念さえも変わっていくのかもしれない。

今回緊急措置として国民に給付金が支給されることになりましたが、少し前からベーシックインカムという、毎月全国民に一定の給付金を支給するという議論も起こっていました。

嫌でも食べていくためにするのが仕事というものだ。生きるとはそういうことだ、とかつては言っていたかもしれませんが、それも企業が従業員の人生を保証していた時代の話です。今、そういう企業がどれほどあるのでしょうか。また、そんなこと従業員も求めていないかもしれません…。

辛くて嫌でしかたないけれど、食べていくためには今の仕事を続けなくてはいけない。今の会社をやめたら、次に就職できるかわからない…そう思いながら歯を食いしばって頑張っている真面目な人が、将来を悲観したり、希望を持たずにやる気を削がれてしまったり、精神を病み自死に追い込まれてしまっているのが今日の社会の現実でもあります。

そういった流れから、ベーシックインカムという議論が始まっていたのだと思います。頑張りたい人にはもっと自由に頑張れる社会を、そうではない人にも食べていく程度の保証をしてはどうかということです。シングルマザーの増加や不安定な収入による子ども達の貧困の問題も急増しています。

このベーシックインカムは、今のままの社会では難しい、現政権の間は無理だろう。いずれ将来的にそうなる可能性はあるかもしれないが…と考えられて

いましたが…。今のままの社会…、現政権の間は…、です。  
どうなっていくのでしょうか???

家庭の中においても、父親・母親の役割も変わっていくのかもしれませんが。かつて江戸時代までの日本では、大人が子どもを可愛がる文化であり、父親が子育てをしたり、子どもをおんぶして出かける姿も普通のことだった、という話を聞いたことがあります。数年前に「イクメン」と言って子育てする父親がもてはやされたことがありましたが、昔の日本では当たり前のことだったのかもしれませんが。

車はどうでしょうか。若者が車を乗らなくなったと言われてだいぶ経ちますが、カーシェアも普及する現在、トヨタさんも将来を見据えていろいろと模索されているようですね。

世界的には、オリンピックの開催について、アメリカ・ロシア・サウジアラビアの原油問題、アジア・中東の国々の宗教問題、和平問題、中国、韓国、北朝鮮、香港、台湾などの隣国の抱える問題や日本との関係性や領土問題もあります。

蔓延する覚せい剤、危険薬物の問題、日本国内に留まる外国人がさらに増えることによる、労働や生活環境の問題もあります。毎月刑務所で数人の外国人受刑者と会っていますが、彼らが口を揃えて言うことは、「こんなに良い国は他にない！」です。優秀でバイタリティ溢れる外国人はたくさん居ます。そういう外国人との就労競争も日本国内で起こってきている時代です。

本当に、これまでのようにはいかない、ということがあらゆる場面において起こってくるのだと思います。人間教育の本質が重要な課題となるでしょう。

あれこれ挙げればキリがないですが、グローバル化が進むと社会が変わることは明らかであり、社会が変わるということは、私たちの価値観や常識、生活や人生そのものがすべて変わるということです。

そういった流れの中で、「もしかすると資本主義経済の終焉に向かっているのではないか？」とも思えてくるのです。では次に何を主義とする時代が来るのか？それはわかりません…。(資本主義というより、世間は拝金主義であったような気がします…)

一つ言えるのは、形骸化していたものが崩れ、価値が求められる時代になるの

かな、とは思います。

それは仏教界においても同じです。これまで形式を重んじて当たり前にしてきた、形骸化していたことが通用しなくなってきました。

「無宗教なのに、お葬式にお坊さんと呼ぶのはなぜだろう？」なんて CM を流されてしまうほど情けないことになっています。またそれに賛同する人もいらっしゃるわけです。まさにお坊さんの価値、宗教儀式的価値が問われているのだと感じています。

そんな中で本来的な仏教はどう応えてくれるのか？

「葬式仏教」と言われるようになったのは明治時代からだそうですが、本来お釈迦様は、今を生きる人、苦しみ悩み生きる人の心を解放するために教えを説かれたのですから、今回のウィルスの騒動も、これからの未来をどう生きるかも、お釈迦さまの教えに照らし合わせて建設的に考えていきたいと思っています。

そこで、今回のウィルスの騒動であらためて教えられたことがあります。それは「主体的に生きる」ということです。

主体的に生きている時は、冷静にいろんな情報をきちんと入手した上で、自分の頭で考えて行動することができます。しかしそうでない時は、文句や愚痴ばかりで自己を見つめることを忘れ、誰かのせいにして責任を押し付けてしまうのです。

「〇〇が悪い」と言っても何も変わらないし、何も始まらないのに…。もちろん、言いたくなる気持ちはどうしても起こってきます。誰にだってあります。けれども、主体的に生きている人はそれでは終わらないのです。その先に、自分に何ができるか、自分はどうすべきか、どうするのか、などと思案をして行動し生活しています。

今回の騒動の中でも、そういう人がいらっしゃいます。これこそが本当の自由だと思うのです。自在と言っても良いと思います。自由自在と言うと、何でも自分の思い通りにするというイメージがあるかもしれませんが、限られた状況や環境の中でも、自分にできることをして主体的に生きることが自由(自在)になるということです。

お釈迦様の遺言は…

自らを拠り所として他を拠り所とせず、  
法(真理・教え)を拠り所としなさい。

人間は怠りやすい。だから精進(努力)しなさい。

簡単に言えば、人のせいにしないで、人を頼りにしないで自ら励みなさい。そして、人間は怠りやすいから努力を続けなさい、ということでしょう。

自由(自在)になっていく、それが解放されていくということです。目の前の状況は思う通りに変えられなくても、自由(自在)に生きられる道が開かれてくるのがお釈迦さまの教えです。

どれだけ家の中にいても、自由(自在)になっていく道、誰かと一緒にいても自由(自在)になっていく道、病にかかっても自由(自在)になっていく道が南無阿弥陀仏と称える一念(一瞬)ではないかと思えます。

どんな時も、南無阿弥陀仏をお大事に。

住職 釋 健雄